

## 第2回 情報推進常任委員会会議録

令和2年10月19日(月)

委員会 議室

### ○会議日程

- 1 開会宣告(13時31分)
- 2 協議事項
  - (1) 本年度の意見交換会の実施について
  - (2) 子ども議会について
- 3 閉会宣告(14時49分)

### ○出席委員(8名)

委員長	6番	吉原哲男
副委員長	5番	無量谷隆
委員	1番	高橋秀明
委員	2番	佐藤忠志
委員	3番	斎賀弘孝
委員	4番	植村敦
委員	7番	西澤裕之
委員	8番	高橋秀之

### ○議会事務局出席者

事務局 長	藤田秀紀
主 事	満保希来

吉原委員長

常任委員会を開催いたします。

今日の協議事項は、1 番目「本年度の町民との意見交換の実施について」それと2 番目は、「子ども議会について」ということになっております。それでは、まず「本年度の町民に対する意見交換の実施について」を議題といたします。

藤田議会事務局長

新しい議員さんが入られたということで、今まで、町民との意見交換会は、4 年連続4 回やっております。

1 番最初は、生涯学習センターで一般町民向けに意見交換会を実施しています。あのときは、議員報酬の話が出ていたと思います。

その次に、2 回目が、老人クラブとの意見交換会をしております。3 回目は、一昨年に役場三階の和室で、農協青年部と商工青年部とそれぞれの地域振興について意見交換をしております。昨年度が、商工会と意見交換をしたというのが今までの4 回の経緯でございます。

常任委員会といたしましては、毎年こつこつと町民との意見交換をしましょうねというようなことで来ておまして、今年度どうしましょうかということ、本日は皆さんの御意見を伺いながらやっていきたいというようなことでございます。

吉原委員長

今年は、特別なことがあって、コロナのことで大変、あちこちでうまくいかないということが随分あります。それで今回、今年中にやるということになったら、その辺皆さんどう考えてるのか、まずお伺いしたいと思います。

植村委員

今まで年に1 回必ずどっかの団体をやってきたという経緯があるんですけども、委員長言うように、このコロナの対策のために、なかなかそういったものを開催出来なかったという経緯は、実際あるんですけども、議会としては、今までの経緯もあって、それらの対策をとりながらできるのであれば、もし、議会のほうで、こことやってみたいという希望する団体があるのであれば、ぜひ実施したほうがいいのかと思います。

これからですから、年内できるのか、年度内にできるのかという部分になりますけども、そんなような気がしてるんですけどもいかがでしょう。

吉原委員長

他に、ありませんか。

斎賀委員

私は、委員長がどう思ってるのかをここで言うのかなと思ったんですけど。

委員長が思っていることについて、皆が賛成なら賛成、反対なら反対の意見が出るんだから。

吉原委員長

私の意見としたら、今回は、いろいろなやっぱり事業関係で、コロナの関係で、皆、自粛してるということでありまして、今年中にやるのは無理かなと考えていたんです。

もし、皆さんがそれでまずいということになれば、何か、意見を出してください。

斎賀委員

私は、今年出来なくても、来年3月までに、やっぱり。年度内の我々の行事だったんだから、これずっと、町は町政懇談会やってるし、定例議会もちゃんと対策とってやっている。学校だって、学芸会でも運動会でも対策とってやってる訳だから、この議会もやっぱり対策をとりながら、何とかして今年も継続してやっていこう気持ちがありました。

吉原委員長

今、コロナウイルスの第3波がきているんですね。

ひょっとして、来年、やれるかなあというふうな心配もある。

しかし、もし来年やるとすれば、11月12月にこの常任委員会を開いて、また、それらの方向性を打ち出していかなきゃなと思いますけども、その点どうですか。

斎賀委員

いや、第三波が来ていると誰が言っているか分からないですけど、今までの委員会では委員長が今年はこのことやりますからってというふうに言ってもらえて、我々はずいてきたんですけど。

吉原委員長

皆さんのやっぱり考え方だからね。私はやりますからって、そうはなかなかならないからね。だから、皆さんどうですか。やりますか。

高橋秀明委員

私も12月までは無理にしても、3月いっぱいまで、年越してからでも、やったほうがいいと思います。

去年11月にやったときに、原子力機構さんの深地層研究所の延長問題で、急遽、招集して、私もそのとき出させてもらったんですけども、それから、やってないと思うので、やはり、年度内にはやったほうがいいと思います。

吉原委員長

もし、来年に実施するということになれば、今年中には、委員会を開いて、意見交換会の内容をつくっておかなくてはならないでしょ。

あるいは、誰がどこの団体を集めるかとかさ。

それを来年にやってしまうとちょっと遅くなりますよね。

どうですかその辺。

植村委員

取り敢えず委員長、年度内で、12月までのうちにやるのか、3月までのうちにやるのか、これ聞いてるとやるべきだと思うんですけど。

それをもう一度確認して、そしてそれから先の話を進めてください。

吉原委員長

さっき高橋君が言ったのは、今年度はまずいんでないかいという話したからね、そういう話したけども、もし、今年度にやりたいとやるということに賛成の方いますか。もし、来年度でやるという方いますか。

無量谷委員

来年度でなく。

吉原委員長

来年度っていうか年明けてからだぞ。

無量谷委員

いや、それは来年度じゃないって。

吉原委員長

いや、年明けから。今年度。

高橋秀明議員

植村議員が最初に言ったように、今年度内にやるということでもいいんじゃないですか。

だから、打ち合わせは、やっぱり今年中に、もう1回でも2回でもやったほうがいいと思う。

植村委員

もう一つ、つけ足して言うのはさ、何で12月前までに、今まで懇談会やってきたかというのと、これは議会の権限じゃないんですけども、こういうことやってほしい、ああいうことをやってほしいということが、予算を絡むような質問事項が出たときに、議会としては答弁出来ないけども、持ち帰って、執行部と相談しますというようなことで対応してきたと思うんだ。

そういったことも含めて、やはり予算編成前にそういった懇談会をやるべきではないのかなってというのが、今までの考え方だったんですけど、今さっき言ったように、この事態なものですから、これから企画してやるっていても、どこでやるのかまだ決まってないっていう状態ですからね。そこはやっぱり変則的にしか出来ないのかなというふうに思います。やはり、基本的には、やっぱり、予算編成前に懇談会をやるというのは、今までの姿勢だったのかなというふうに私は思っています。

吉原委員長

こういう時代で、なかなか早いうちにそういうことを話しする機会がなかったもんで、この時期になってしまったんだけども、今年度中に何とか。本当は予算は11、12月ですから、なかなかそこまではいかないかしらんけども、今年度中にやるということによろしいですか。

(「はい」の声あり)

このことについて、11月なり12月なりに、また話をしましょう。

植村委員

ただ、話し合いをしましょうということで閉じてしまってもいいんですけども、やはり、どこの団体でやるのか、全町的に呼びかけてやるのかを、今日ちょっと皆さんで考えておいたほうがいいんじゃないですか。

吉原委員長

そういうことで、どういう団体とやるか、皆さん考えてますか。

無量谷委員

今、留萌管内の農協さんが一つになるっていう状況なんで、幌延は、はみ出されたような感じなんですけど、その辺の絡みもあって、農協の理事さんと1回やってみたいなんていう気持ちもあるんですけども、その辺、皆さんどう考えるかなあという感じがするんですけど。

農協さんの理事者と、一応、議会とどうかなという感じがしています。

高橋秀明委員

前回、農協青年部と商工青年部、同時に集めて、ここの3階でやったんですか。

(「やった」の声あり)

そのときにはどういう、例えば時間が足りなかったとか、いろんな意見が出過ぎたとか、出なかったとか何か結果っていうか。

西澤委員

そのときの担当の委員長だったので、そのときの概要というか、後で事務局から、もしあるのであれば、補足していただきたいですけども。

まず、全体の流れるには、やっぱり最初なかなか意見も出しづらい状況だったのかなと思いますけれども、時間的には2時間ぐらいやっていて、終わった後の感想としては、これは老人クラブからの意見としてもあったんですけども、これ毎年やってほしいっていうような意見が老人クラブそれから両青年部から出ていて、定期的にそういう話合いを持ちたいっていう話は出ていました。

高橋秀明委員

それで、農業青年部と商工青年部一緒でも大丈夫だったですかっていうのを聞きたいんです。

西澤委員

それぞれ、職は違えど、幌延町で、しかも後継者としてやっていこうという人たちだったので、町との関わりも大事にというか、関わっていくからこそ後継者という意味合いも含めて、職業が違って、その辺は問題なく、お互い何を考えているのか何をやってるのかっていうことも、多分、お互いの青年部も知れたので、青年部どおしの話の中でもよかったという話で聞いています。

高橋秀明委員

無量谷さんは、農協青年部は、合併問題もあるからって言ったんですけども、農協青年部と商工青年部を合同で呼んでやる方法がいいんじゃないかなあと思うんですが、今は決めなくてもいいと思うんですけども。

吉原委員長

ほかにありませんか。

今、出てるのは、高橋委員から農協青年部と商工青年部とやってもいいんじゃないかと。前にもやったけど。それと、無量谷君の意見は、農協の理事者を呼んで、どうしてほしいかということ聞いたほうがいいんじゃないかという意見ありますけども、どうですか。

無量谷委員

幌延町農協と議会と両輪のような形だと思うんだけど、ある程度、これが両方まとまっていかないと、ばらばらだと、農家と役場という観点がまた崩れてくるのかなという感じがするんだけど、その辺の確認をしたいなっていう部分あって。

なかなか今、後継者っていうか、俺も第一線から外れちゃってるんで、農協の内部的なそういう考え方が伝わってきづらいついていう感じがするんで。ある程度、議会としても、一緒に考えていかないと駄目でないのかなって感じしたんで、農協の理事者と協議していきたいなっていう部分があったんで、その辺、皆さん、どう理解するか。

西澤委員

もう少しちょっと具体的に言ってもらわないと、全然ニュアンスがわからないんですよ。例えば、商工会青年部と農協青年部と懇談会を持ったときには、先ほど言ったように、幌

延町の将来を担う青年たちが、この町をどうしたいのか、現状で何を考えているのか、議会に何を求めているのかということで、懇談会をしました。老人クラブに関しては、現状、何かありませんかというホワンとしたような感じだったんですけど、今考えてることを求めていたんですよ。

今話してるそのJAの理事さん方と何を話すのか、そのJAの内部を議会が知ってないと駄目なのか、その知った上で、何を議会ができるのかっていうところ、言っていることが全然わからない。

行政と農協が対立してるから、議会が入れということを言ってるんですか。

どういうことですか。具体的に言ってください。

無量谷委員

今まで農協は留萌管内に所属してました。

だけど、今度は留萌管内から外れると思うんですよ。ですから、今度は宗谷となると、幌延町農協は、単独でやっていかななくてはならない。それで今後、これだけ農家が減っていく状況において、本当に単独でできるのか。将来展望を踏まえながら、ある程度、今後、農協運営あるいは、役場としても応援できる部分があるんでないのかなという部分があって、行政は、宗谷管内ですけど、ある程度それらの中でJAが孤立して、それこそ破産みたいことになっても困ることなんで、その辺が役場として手助けできる部分はないのかなという感じはしています。

西澤委員

だから、行政側と議会とJA幌延町があって、留萌から外れる、幌延町の農協が単独になる。それを議会として何をするんですか。それを止めたほうがいいですか。

役場が行政が、幌延町農協に支援することは、もっとあるんじゃないかっていう話と、今言ってる留萌から外れるから単独になる。

(「まだ、外れてないぞ。」の声あり)

だから、JA理事さんと懇談するのはいいんですけど、その話を持ち出されて、議会として何か話できるんですか。単独になるならない。JA幌延の経営に関して、議会が何か言えるんですか。そこが分からないんですね。

斎賀委員

今、無量谷委員への説明の中で、外れるっていう、そんなうわさもないし、話もないし、外れるって、こっちから一方的に考えちゃうのも、みんなを戸惑わせるから、やっぱり、そこは、ちょっと農協に確認したほうがいいんじゃないですか。

その理事と話をするのは別として、そういう外れるっていう情報を持ってるっていうこと、それを確認したほうがいいと思うんだよね。外れはしないと思いますよ、私は。

藤田議会事務局長

ちょっと話を整理させてください。

まず、前回の農協と商工青年部との意見交換会やったときは、2時間半ぐらい、3階の和室でやったんですよ。そのとき、どういうやり方をしたかという、まず、まちづくり常任委員会と情報常任委員会の委員長から、常任委員会はこんな活動してますという報告をした後に、議会側から、まず、議題、そのときの議題は何かという、その意見交換会をするのに当たって、漠然として何もないという形ではなくて、こちらのほうから、議員の成り手

対策で今困ってるんだから、それについて、みんなどういふ意見持ってるんだらうかとか、まず議員の成り手対策に対する議題を一つ。その次に、観光の拠点となる道の駅の構想について、町として取り組んでますと、それについて皆さんの意見を伺いたいというような、大項目としては、そのほかに、バイオマスをやってますと、農家の人たちもいらっしやっているので、それに対する意見をもらったということで、そのときの行政課題があつて、その行政課題についての考え方を各青年部に確認したつていうやり方です。

だから、最初から、例えば農協の合併問題だとか何とかがつていふような議題ではなくて、その行政の課題に対する意見を聞いたつていふやり方です。

そのほかに、何か町に対する要望ありませんかというやうな話を伺つた中では、例えば、コンビニエンスストアが欲しいから、何かを町でお願いしてくれないかだとか、ゴルフの打ちっ放しもあつたほうがいいだとか、そういう、まちづくりのために、いろんな意見を伺つたということでした。

やっぱり、この意見交換会つていふのは、基本的には、行政課題があつて、それらについて、各団体でどのような考え方を持ってるか、団体に限らず、個人もそうなんですけど、行政で解決すべき取組についての意見を団体にいろん伺つてきたというやうな経緯でやってございます。

今の無量谷委員の意見というの、農協が今後どうしていかつていふ課題について、農協と意見交換していきたいつていふやうな話だつたんですが、それつていふのは、例えば、行政課題になるのかつていふことです。例えば、その話を聞いたなかで、行政がそれに対してどうしていかなきゃなんないかつていふ課題にはならないですよ。

ただ、農協自体の経営が厳しいから、それに対する何かしらの補助を考えてくれだとか、それだと行政課題になるんですけれども、その幌延町農協が留萌管内の農協と合併するだとか、宗谷管内のどこかの組合に合併するとかつていふ話は、農協内部の話なんで、そこに対して行政がいろん意見を聞いたところで、先ほど、どちらかの議員さんがおつしやつたとおつり、それに対して、例えば議会としてどうしようもならないでしょう。

だから、それつていふのは、最初から、農協の理事さんと意見交換する中では、どうもならない課題つていふか、こちらから提案するやうな課題にはならない。

例えば、その他の中で、農協さんが合併を考えてんだけど、行政として、こつういふ支援してくれないかとかつていふものが、もしあるんだとすれば、それに対して、持ちかえつてきて、担当部局にお知らせするつていふ程度しか出来ないと思つうんですよ。

だから、最初から農協合併つていふ議題をもつて、農協の理事さんとお話するつていふことには、ならないということですよ。

例えば、今、バイオマスをやってますよね。これは、正に農協も絡んでくるお話ですからこの前の議会で、理事者側といろん議論あつて、農協と今後、資金繰りについて、いろん情報交換してるのかつていふやうな意見が出つた中で、行政側の町長は、農協と意見交換してないから、それらの意見交換もしなきゃならないと町長が発言してますよね。

そつういふのは、農協さんと、もし、お話し合いをするんだとすれば、当然テーマになつてくるとは思ついますよね。

今、行政として取り組んでるバイオマスだつたり、今回の議論が出ていたのは、道の駅やつてるけど、さつぱり進んじやないじやないかとかつて言つたときに、農協さんとの意見

交換の中で、例えば、道の駅について農協さんはどう考えてるんですかっていうのも、テーマにはなると思いますよね。

あとは、例えば、今、全員協議会の中で、議員報酬の減額を考えているんだけど、長期に休んだ場合に、休んだ日数に応じて、報酬の減額を考えてんだけど、農協さんどういうふうに考えますかっていうような、要は、今の行政課題について、農協さんの意見を聞くっていうような会だと思っんですよ。

これが、高齢者やったけど、若い人たちの意見を聞いてないなっていうのもあるだろうし、商工会やったんだから、農協との意見交換をしたいっていうのは、当たり前のことで、それに対する意見って僕は何もないんで、今年はどうことやりましようかっていう話の中で、次に決めるのはどうことやろうって決めたら、そのあとにどういう内容のことを意見交換しようかっていうお話に進んでいただいて、それらがまとまったら、私と常任委員長と一緒に行って、こういう件について農協さんと意見交換したいというような話をした上で、農協さんが、もし拒否しないのであれば、日程調整をそこでしていくっていうような流れになると思っんです。

だから、それを踏まえた上で、皆さんにいろいろと今日はご議論いただきたいというようなことですので、もし違う考えがあるなら、教えていただきたいんですけども。

基本的に、行政の議員さんと農協さんが、どういうテーマを持って、どういう議論をするかっていうような話の中で、この会議を進めていっていただきたいなと思います。

吉原委員長

今の局長の発言のとおり、皆さんから、どういう団体と話し合いをしていくかということをもまず皆さんから出してもらわないと。

高橋委員は、今まで通り、農協の青年部、商工青年部と話ししたほうがいいよという話が出た。

ほかの人たち、ありませんか。

それと、無量谷君、農協との話し合いの接点をどういうふうにつけていくのか、その辺を皆さんに言ってください。

無量谷委員

決まっていないから、まだ何とも言えないけど、今、局長が言われたように、俺の考え方がちょっとずれていたら、あれするけど、やっぱり、バイオマスだとかそういうのも、行政では農協さんにリードとってもらいたいとは言ってるけども、やはり主体は、町だと思っし、その辺の流れから言っても、そういう議題を持って農協と1回接触すべきでないのかなあという部分はあります。

高橋秀之委員

農協の理事さんと意見交換するのはいいと思います。

やっぱり、今言ったように、これからバイオやってくんで、そのバイオの話したほうがいい。要するに、個人なんですけど、最終的な農協も絡んでくるはずなんで、農協がどういう考えでいるのか。今までは、農家1軒1軒の考えしか聞いてないんで、農協として、もし農家がバイオをやった場合に、農家に支援をするのかしないのかいうこと。後は、担い手とか新規就農をどういうふうにしていくとか、あとは、天塩でもどこでも、育成の牛舎っていうものをつくってるんだけど、幌延はそういうもの全然つくる気配がないような気がするん



ですよ。

みんな牛を預けるにも預けるところがなくなったっていうことを聞いてるんで、その辺のことを中心的に、こっちから課題を出して、それで意見交換をすればいいんじゃないかなと思ってます。今言ったほかにも、まだ必要だよっていうのはあるかもしれません。

議員の8人中、農家議員が5人もいるんだから、俺ら以上に農家に関する話を聞いてみたいところ、これどうなってんのって聞く部分がたくさんあると思うんで。

さっき局長も言ったけど、こっちから先に、これとこれとこのぐらいのことをやっていきたいんでというやつを言って、質問事項が先にわかれば、ある程度聞かしてもらって、それに答えていくっていう格好でやっていければ、いいのかなって。今までとあんまり変わらないやり方で、俺はいいんじゃないかなと思うんですけど。

吉原委員長

今の無量谷委員と高橋委員の農協と交換会をしよう。

高橋さんは、商工会という話が二つ出てますけど、ほかにありますか。

植村委員

意見交換会ということですよ。各団体と意見交換するつちゅうのは、団体が何を議会に求めてるか、行政に求めてるかということを探るのが基本だと思うんです。

どうも、今の現状だと、農協どう考えていいですかというような、逆に、こっちから農協を問いただすという会合ではないような気がするんだよね。

考え方を聞くのはいいんですけども、それで意見交換するということになると、かなり重たいものになるのかなっていう気がするんで。

そこら辺を気をつけながらやらないと、今の状況では農協は、はいわかりましたって簡単に受けてもらえないんじゃないのかなという気がするんですけど。

吉原委員長

そしたら、今まで出てる中では、農協、商工会で、今、植村君が言ったように、ちょっとやっぱり深く追求すれば、重いものになるんじゃないかという話。

高橋秀明委員

私も、今、高橋議長の話聞いて、農協の意見も聞いてみたいな。

選ぶのは、今決めるかどうかは別にして、次の何年度っていうか、4月以降に、例えば、商工青年部と農業青年部との懇談会をずらして、農協さんに、バイオマスの問題もそうだし、いろんな話の中で、農家が株式会社とか会社にしてるところは、幌延少ないねっていう話も結構ある、聞かされるんですよ。法人化ですね。

そういうのを含めて、事務局さんと委員長さんにその辺の質問事項を整理してもらって、いろいろ伺うのも知りたいことだっていう気はしてます。

吉原委員長

そしたら、農協を重点として話を進めていきたいということによろしいですか。

(「はい」の声あり)

藤田議会事務局長

じゃあ、まずは農協さんということになった。

そしたら、例えばどういう意見交換というか、テーマを何か皆さんから出してもらって。

吉原委員長

そしたら、今までやったバイオだとか、どの程度の協議事項にしたいのか、その辺について、ちょっとお伺いしたい。

植村委員

だから、今現在、町が進めようとしてる、行政が進めようとしている農業関係の事業をどう考えてるかっていうことでないの。

後は、それこそ、農協もしくは農家が困ってて、行政に何とか力を貸してほしいという問題があるかないかと。

吉原委員長

あんまり、沢山あってもだめだ。三つか四つの協議事項。

藤田議会事務局長

そしたら、バイオの話の一つテーマにするっていうのと、必要としている補助っていうか、そういうような話も一つにしますかね。

農協が求めているものっていうと、何か広くなっちゃうんだけど、それは最後に、そのほか何か農協さんが求めているものありますかっていう聞き方がいいんだと思うんです。

ただ、その前段の具体的な農協さんと議論するものっていうのは、バイオ以外って何かありますか。例えば、農家を法人化するため、何か、農協さんの考え方があるかないかだとか、ちょっと具体的にやったほうが、向こうが対応しやすいと思うんです。

高橋秀明委員

例えばこういう意見どうですか。

創生会議の中で、ちょっと言ったこともあったんですけど、豊富や天塩を見たら、農家を経営してて、いろんな製品を加工したものを作ってるところが結構、目につくんですけども、幌延はないねって言ったら、家族経営とかが多いので、ある程度、収入があっても、なかなかそこまで手が回らないのかなっていうのが、私の大ざっぱな考えなんですけど、その辺もテーマとして、町民が求めているものということも、一つ入れてもらったらいんじゃないかなと思うんですよね。

齋賀委員

今回は、議員のほうも勉強さしてもらおうような立場で、農協には農協で農協の将来に向けての農協像というか基本計画っていうのは持っているわけだから、それについて例えば、町で今さっき高橋さんが言ったように、大きな300頭規模の牧場をつくって、そこを法人化にして、そこにいろんな人来てもらって、牧場を作りたいという構想がふるさと創生であったわけだけでも、それが、なかなか実現出来ないのは、何でだろうと。農協の将来に向けての目標の中に、そのバイオの話もないし、大型の法人農場をつくるって話もない。そういうのは、なぜ出てこないのか、何がネックになって、そういう話が出てこないのかっていうのは、尋ねるのがいいんじゃないですか。

無量谷委員

その具体的なことは、齋賀委員とか議長が言う、育成者をだとか、研修牧場って昔あったんだけど、研修牧場の中止になった経過もありますけども、これも、毎年、離農をする、どんどん増えていく、必ず毎年あるっていうような状況の中で、農協としては、やっぱり手数料収入が下がるんで、そういうのも加味して農協が立ち上げるような感じでなかったら、農協そのものが成り立っていかなくなっちゃうのかなって気がするんですよ。

だから、今、齋賀委員が言われたように、研修牧場っちゅうのが出来てほしいなと思います。そうすれば、後継者対策にも繋がるのかなって、雇用すれば。そして、離農対策あるいは後継者対策っていう形でできるのかなという感じはするんだけど。ましてや、牧草地が非常に余ってる状況なんで、そして、草がいつちゃってるから、なお更こういう研修牧場なりなんなりあれば、やっぱり地元で地場産品を活用してできるっていうのが、企業誘致の部分にも該当するんで、これは本当に農協が真剣になって立ち上げてくれるようじゃなかったら、駄目でないかなと思うんです。

それに対して、手だてなり何なりを町がするかしないかは、町長の判断で決まってくると思うんですけども、その足がかりとして、窓口は農協が動いてくれないとっていうのが、私の意見なんですけど。

西澤委員

植村委員も言っていましたし齋賀委員が、今回は議会は勉強する立場でっていうか、そういう思いでっていう話です。だから、今みたいな無量谷委員の話みたいに、結局、壊れるんですよ。

意見交換会で、それだったら、農協の経営に口出すっていうか、農協の姿勢を議会が批判してるってことでしょって、言いたいのは、そんな中に一緒に入れないですよ。

だって議会在農協に文句言いに来たって話にしかないですよ。議会で行くんですよ、常任委員会で行くのに、私がそんなこと言っても、議会でいったら、議会が、農協にケチ付けに来たって話になっちゃいますよ。今回、それ危うくないですか。

もっと、議員の中で議論をして、もうちょっと練り上げて行って、行けるならいいですよ。だけど、その気持ちが消えないまま、農協に何かを言ってやろうってみたいな姿勢で行かされると、怖くて一緒の場所に入れないってことです。

藤田議会事務局長

言えることは、農協の経営がどうのこうのって、議会が口出しを出来ないんで、そういう議論はする必要はないし、すべきじゃないんだけど、さっきから出た話の中で研修牧場の話は、どうなったんでしょう。

齋賀委員

大型法人農場をつくるって言ったのは、行政側は先に地方創生の委員会の場で言ったんだから。300頭規模で具体的に考えてますっていう構想を、総務課長が委員の前でお話をしたわけで、それから話が進まないってわけじゃなくて、聞くところに、町長は、今、玄関に入ったばかりで、これから話しをするって話で停まっている。

藤田議会事務局長

大型法人農場の話して言えば分かるんですか。

齋賀委員

うん。わかる。

それについては、議員じゃなくて、町民から選ばれた委員の皆さんの前で、そういうお話をした経過があって、それはいいですねって委員が皆それやりましょうねっていうところになってるんだけど進まない

西澤委員

だから、タイムスケジュール的にはもうスタートしてるんですよ。地方創生の中のタイ

ムスケジュール的には、スタートしているはずなんだけど、してないからって何回か議会でも聞いてますよね。斎賀議員が。

斎賀委員

玄関に入っているって話をしてるんです。

西澤委員

それはだから、今言ったように、玄関の入り口に入ったっていうだけで、基本的には農協さんとの話は全くしてないってことでしょう。

斎賀議員

いや、してるって。しているんだけど、進んでいない。

農協の役員会の席では、そういう話題はでない。

吉原委員長

ここで、休憩します。

(14時16分 休 憩)

(14時23分 開 議)

吉原委員長

それでは、会議を再開します。

植村委員

先ほど休憩前に、農協の理事者と懇談したいという意見あったんですけど、なかなか、議会としても農協としても、かなり難しい問題が山積しているということで、議会として立ち入れない部分もあるのかなというふうに思いますんで、それでも、やっぱり一次産業、大事な産業を担う団体ということもありますんで、私はこの際ちょっと視点を変えて、農協の女性部と、また、そこに商工の女性部も入ってもらってもいいと思います。

女性の意見を聞くと、議会に対する要望を聞くという機会も今までなかったんで、もし実現すればいいかなというふうに思ってます。

吉原委員長

それでは、今まで出てきた中では、植村君の言ったその農協の女性部と商工会女性部という団体と意見交換をしたいという意見が出てきております。

それと、この意見交換会は、今年度中にこの会を開くということ、それと今言った商工会女性部と農協婦人部という話合いは皆さんどうですか。よろしいですか。

(「はい」との声あり)

植村委員

これを各団体に、いいか悪いか、参加してもらえるかもらえないかをまずは聞いてください。

藤田議会事務局長

あと、どういうテーマで話し合うかってことをちょっと話し合ってください。

吉原委員長

そしたら、まずは、意見交換会は今年度中にやるということ。

そして、農協婦人部、商工会女性部とお話をしたいということ。

ただ、その中でテーマをどのようなテーマにしたいかということをお聞きしたいと思います。

佐藤委員

農協と商工会の女性の方とか懇談をするんで、お互いに共通した女性の方ならではの何か要望って何があるのかなと思って。

農家にしたら、町でもヘルパー制度などにも随分助成を出してるんですけど、これはもう今、企業なんてのは、働きた方改革で、いかに無駄な仕事をしないで、仕事終わったら、さっさと帰れと、無駄な残業をやめて、ノー残業デーだとかを決めたり、1時間でも10分でも早く帰って、自分の趣味だとか、いろんなものを身につけて、また、家庭サービスをしたりしなさいって中で、農家っていうのは、まだ過重労働っていうか、休みも少ない中で、特に若い人たちが、随分、農家にも後継者の中に入ってきてるんだけど、そういう中で、どれだけ休みとれてるのか、とりやすくなってるのかヘルパー制度って。

自分も農家を離れて、現状よくわからないんだけど、もう少し町もヘルパー制度への助成額を増やせたら、月1回か2回確実にとれてるのか、とれるのか。個々の経営の状態もあるんだと思うけど、その辺もこちらから求めてもどうなのかなと思ったりしているんですけど、ただ商工会については、今のところ、ちょっと思いつかないんだけど、農家の奥さん方にはちょっと聞いてみたいもんだなと思っております。

藤田議会事務局長

ヘルパー制度ですか。

佐藤委員

ヘルパー制度が、どの程度、利用されてるものなのか。

植村委員

ヘルパー制度で満足してるのかしていないのか。

佐藤委員

お金があっても、たまに聞くんだけど、冠婚葬祭が固まっちゃったら、ヘルパーの人員が足りないだとか、予備のヘルパーの農家の方もおるみたいですけど、大変な思いしてるということたまに聞くことあるもんですから、もうちょっとヘルパーの体制を強化すれば、確実にとっていけるのか、そこら辺もちょっと聞いてみたいなと思って。

たと、商工については、今ちょっと思いつかないんですけど、そこは、ちょっとあるかなと思ってます。

吉原委員長

ほかに何か。

今、農村の婦人部は、仕事を休めないのではないかという話を聞いてみたい。

商工のほうには、どのような話を聞いたらよろしいですか。

植村委員

女性の視点という感じでいけば、商工も農家も一緒なんだけど、今、町でやろうとしているのが、いろんなイベントだとか、特産品の開発だとかというのは、なかなか出来ない。それらについて、商工の女性部や農協の女性部の方が、どのような考えを思ってるのかをもし町が音頭をとってやろうとしたときに、参加してもらえるかももらえないかといった話も乗ってきやすいんじゃないのかなと思うんだけど。話題提供で。

斎賀委員

今委員長から農家の婦人さんが休めないんじゃないかっちゃんう話があったけども、それよ

りも、ヘルパーも今年から流れが変わって、外国人の人を一人頼んで、まだ来てないんですけどコロナ禍の影響で、今、春からずっと1軒の家に、定期的に、その家に必要ないとか、必要だとかにかかわらず、定期的に2人ずつ入れる予定だったんだけど、さっき言った外国人の方もまだ来てないので、1人ずつ、農家に入れることにしてるんですよ。自分に都合悪かったら、誰か都合のいい人と交換してもらったりするというふうにしてるんですよ。

何を言いたいかと言うと、昔のように、自分の都合に合わせてとるとかじゃなくて、皆さんに休日は取ってもらおうということで強制的に、今、入ってもらってやっているんです。

だから、ヘルパーも農協とか役場の助成も必要なんだけど、ヘルパー利用組合の中で収支が合うようにしていこうということで、利用の値段も今はがらりと変わり、今、1年目で試験段階なんだけど、こういうふうにしていこうとヘルパーの中でも、事務局もいろいろ、試行錯誤してる段階なんです。

だからヘルパーの利用のことより、ヘルパーのことを決めるのに、婦人部とか農協青年部も入って話ししてるんで、ヘルパーも大事なんだけど、商工の婦人部と酪農の婦人部の皆さんが集まるんで、それぞれの商工の婦人部の方と酪農の婦人部の方々のそれぞれの女性の立場で、今以上にこの生活を楽しくしていくために、何か考えがありますか。それに対して、何か行政としてお手伝いできることがあるかという夢を聞いていくのも、夢って言ったら失礼かもしれないけど、それぞれの立場で生活を向上させるための、何か、お手伝いできることありますかという話を進めていったほうがいいんじゃないですか。

その中で、ヘルパーをもっと充実してほしいって人がいるかもしれない。

市町村としたら、もっと特産品開発したり、商工だけじゃ出来ないから、酪農婦人部の皆さんの力を借りたいから協力してくださいかって話もできるかもしれないし。

我々としては、婦人部のために使えるような予算はあるのかなっていうことを、もう一度整理しておいたほうがいいですよ。そういえば、婦人部のために使えるお金って、何も無いな。今思ったのだけど。

吉原委員長

それでは、今、出てきてるのは、生活を楽しくする。それと、特産品を作るという話出てきてますね。

他に何かありませんか。

3つぐらいのテーマが欲しいですからね。もう一つ何かありませんか。

いや、そしたら、全部ここで全部決めるわけにいかないでしょう。

藤田議会事務局長

ある程度決めてください。

そうしないと、次の話できませんので。

まだ、時間早いですから。

吉原委員長

そしたら、他に何か、もう一つぐらい何かありますか。

高橋秀之委員

今ある制度の使いづらいところと、今ある制度をもうちょっとこうしてほしいとか、女性の目から見て、こういう制度が欲しいよねとか、そういうのを聞いたほうがいいのかなと思うんだよ。男の人はこれでいいけど、女性から見たら、これはこうだよってという意見があ

と思うんで。

今ある制度を、もう変えてくれれば女性は使いやすいんだよとかと、こういうやつが欲しいよねとかっていうのをちょっと聞いてみてくれれば、理事者にも言って、そういう制度を入れてもらえる可能性も出てくるで。

植村委員

そういった女性目線の意見もいいよね。

佐藤委員

女性議員でもいれば、また違うんだけど。

吉原委員長

それでは、今、出てきてるのは、生活を楽しくするというのと、何か特産品をつくること。そして、女性の目から見て、何か改正してほしいことの三つ出ております。

藤田議会事務局長

あと、女性から見てほしい制度です。

吉原委員長

この4つをテーマにして、皆さんに聞いてみたいということですね、よろしいですか。

(「はい」の声あり)

この次はどうする。

藤田議会事務局長

これだけ決まったら、商工会と農協行って、事務局と話ができます。

懇談会がいいですよっていうことになれば、日程調整すればよいので。

吉原委員長

それでは、この4つのテーマで、各女性部、婦人部に聞いてみて、あとは日程調整してやりますか。

(「はい」の声あり)

じゃあ、そういうことで、よろしいですか。

(「はい」の声あり)

それでは、2番目の子ども議会について話し合っていきたいと思います。

実は私先週の木曜日に中学校に八鍬先生(やくわ)に話を聞いてきたんですよ。

それで先生は、結論としては、今年中には無理ですねと言われました。それは何故かというと、夏休みが長かったせいもあって、授業がしっかり進んでないことと、もうすぐ、12月に入れば、進学の問題がありますよね。そしてすぐ3月に卒業式。そして、新入生の受け入れ準備ということもあってなかなか難しいと。

それで、もし、年明けてコロナ禍がある程度収まってくれば、あるいは、国でワクチンが出来て、ある程度収まってくれば、今までどおり、2月に議員が議会のお話をして、4月に子供たちが町長にする質問を考える時に、我々が皆で行って、質問事項のアドバイスするという流れで今までやってきたわけですよ。それをやっていきたいと。

そして、今年からは、3年生を主体としてやりたいと。

それは、5月に入ってすぐ公民という科目の中で議会のことだとか何か出てくるので、3年生を主体としてやっていきたいという話をしてきました。

今年はちょっと無理だけでも、来年中のことは、コロナが収まってから、進んでいこうと

いう話をしてきたわけですけども、あと何かありますか。

植村委員

話わかりました。

今年度内は無理だということで、今まで2年生の時期に、子ども議会を開催してきたんですけども、今の2年生の間に出来ないということが、はっきりしてきたということだと思います。

そうすると、今言ったように3年生、今の2年生が3年生になって、日程からいくと4月5月頃に子ども議会ができればいいなというふうに思っています。

せっかく始めた子ども議会、非常に子供たちにも好評だし、私達も勉強になるし、町民からも大変良いことだという意見もいただいていますので、できることであれば、そういう形で続けていければなというふうに考えてますので、今後の日程調整等々、中学校と上手にコンタクトをとりながら、新3年生が子ども議会の実施に向けて進めていくということで、お願いしたいなというふうに思っています。

西澤委員

あと1点、3年生主体になるということで、3年生が今度対象になるということでいいんですけども、確か3年生は例年でいけば、5月が修学旅行があるので無理だっという話をずっとされてきたので、その辺を確認をされてきたのか、もし確認してなければ、その修学旅行にぶつかるって話がなくなるのかどうなのかっていう話です。

吉原委員長

修学旅行の件は確認してこなかったですね。

西澤委員

今年だったら、5月に行けなかったんで、9月ぐらいに修学旅行がずれたんで、来年からもそういうふうにはずらして、そこが修学旅行だから5月出来ますよって話だったら良いですけど、今のところ、その話に行きました、いや5月でって言っても、その先生も修学旅行のことをすばっと抜けたら困るんで、実は、修学旅行あったのでできませんって話にもならないので、そこだけ確認をしてください。

吉原委員長

ただ、先生は新年度になったら3年生になるから、公民の勉強がありますからという話をしていました。だから、その辺はもう1度確認をしてみますけども、修学旅行ね。

もし、平常に戻れば、いつも通りにやるということでもよろしいですね。

もし、ワクチンがうまく効かなくて、まだ、コロナがでていようならまずいけども。

藤田議会事務局長

来年3年生やれば、空白の学年がなくなるんですよ。

植村委員

これからは恐らく、そういう形で3年生になったときにやるということだね。

藤田議会事務局長

3年生になると確か公民の授業が始まるんで、公民という科目は、まさに、政治の話や議会っていうのも、その授業の内容に合った形になるはずなんで、ただ今までのスケジュールでいくと、子ども議会をいつやるのかっていうことと、その前段の講習や質問作成のお手伝いってありますよね。委員長が学級に行って、議会はこういうふうにするんですよっていう



講習会をしてきて、そのあとに、町長に対する質問を考えると、議員みんなで生徒が質問を作るお手伝いに行って、子ども議会のリハーサルもやりましたよね。だから、子ども議会の前に3～4回学校にいきましたよね。

だから、それらを学校の授業のカリキュラムに加えてもらうためのスケジュールをどうするかという話をちょっと委員長が中心になって先生と調整をしていただいて、事務局はその中でいろいろお手伝いをしていくっていうような形だと思うんですけど。

植村委員

調整、よろしく願いいたします。

高橋秀之委員

これ、コロナの影響が続いてる場合、これを中止にするしないっていうのは、学校側が中止の判断、それとも議会側で、今回は中止しますと、どちらが結論をだすんですか。

吉原委員長

これ学校側でないかなあ。

藤田議会事務局長

学校は、1年間のカリキュラムを決めて授業をやるじゃないですか。

結局は、今回もそうなんですけど、1年間に決めたカリキュラムが、コロナ禍の影響で授業が出来なくなっちゃって、学校が休みになっちゃってっていうことで、この子ども議会を入れる日程が出来なくなるっていうことだと思うんです。

だから、今から来年に向けて、こういうふうにやりましょうっていうスケジュールを、ちゃんと入れていったら、先生たちはちゃんとカリキュラムを組んで、その全体の日程の中でやってくれるんですよ。

だから、早いうちに打合せしなきゃ駄目なんです。

結局は、コロナ禍の関係でまた想定外のお休みだとか何とかかかってなっちゃうと、学校でも、スケジュールどおり出来ないということになっちゃうんで、そうなるもまた議会と議論するんだけど、やっぱり生徒の授業が中心になりますから、そこはやっぱり議会のほうで、学校の事情を考慮した上で、こちらとしての対応も決めていくっていうことだと思います。あくまでもこれは議員さんの事業ですから、学校とタイアップした議員さんの事業ですから、その中で、学校が出来ないって言ったら、学校が出来ないって言うのに、議会でそれは困るって話にはならないと思うんです。

だから、お互いに情報交換を日々やりながら、授業の状況やコロナの状況を確認しながら、今年は出来る出来ないという判断は、どちらが決めるっていうことではなくて、お互いに情報交換しながら決めていくっていうような形だと思うんですよ。

学校だって年間スケジュールあるんで、それに沿ってやっていかなきゃ駄目なんで基本的に。そのためには、前の年度から話をして、学校の1年間のスケジュールの中に組み込んでもらうっていう手続が、必要になってくると思います。今まではそれが出来てたんですけど、今回はコロナの関係があって、1年吹っ飛んでしまっちゃったものですから、じゃあ来年どうしようかって言った中で、前々から八鍬先生とは、今年出来なくて、次は3年生になってからだよっていうような話は実は事務局とはちらっとはしていたんです。

今回、委員長に行っていたら、大体そういうような話になってきたんで、来年実施するっていうことは、今の段階では可能だと思います。ただ、コロナ禍の関係があって、また

学校が休みだとかなんとなくかっていうと、いろいろ事情は変わってくると思います。

今後は、委員長を中心に、いろいろと先生と学校のほうと連絡取りながら、スケジュールだとか組んでいきながら、皆さんにいろいろ御相談していくというような形になろうかと思っています。

吉原委員長

では、子ども議会はこの程度で終わります。

それで今回の情報推進委員会もこの程度でよろしいんじゃないですか。

どうですか。

(「はい」の声あり)

それでは、令和2年第2回情報推進委員会を終わります。

どうもご苦労さんでした。

(14時49分 閉 会)

以上、相違ないことを証するため署名する。

委員長 吉原哲男

以上、記録する。

主事 満保希来